

令和7年度第3回東温市地域公共交通活性化協議会（東温市地域公共交通会議）  
次 第

日時：令和8年3月13日（金）

14時00分～

場所：東温市役所 4階 大会議室

1. 開会

2. あいさつ

3. 協議・報告事項

- (1) 令和8年度歳入歳出当初予算（案）について
- (2) 令和8年度取組概要（案）について
- (3) 第2次東温市地域公共交通計画の策定に係るパブリックコメントの結果及び計画の決定について
- (4) 東温市地域公共交通利便増進実施計画策定に係る事業者選定について
- (5) 東温市地域公共交通利便増進実施計画策定業務プロポーザル評価委員会設置要綱（案）について
- (6) その他

4. 閉会

<事前送付資料>

【資料1】 令和8年度歳入歳出当初予算（案）

【資料2】 令和8年度取組概要（案）

【資料3】 第2次東温市地域公共交通計画（案）

【資料4】 第2次東温市地域公共交通計画 パブリックコメント対応表（案）

【資料5】 東温市地域公共交通利便増進実施計画策定に係る事業者選定について（案）

【資料6】 東温市地域公共交通利便増進実施計画策定業務プロポーザル評価委員会設置要綱（案）

東温市地域公共交通活性化協議会(東温市地域公共交通会議)委員名簿

	団体	役職	委員	備考
1	東温市	副市長	内田 万美	
2	株式会社伊予鉄グループ	取締役	竹中 由紀夫	代理:中川 智之
3	東温市タクシー連絡協議会	会長	和田 宏一	
4	愛媛県バス協会	専務理事	松本 真一	
5	愛媛県ハイヤー・タクシー協会	専務理事	谷口 政賀津	欠席
6	国土交通省松山河川国道事務所	計画課長	森 貴洋	
7	愛媛県中予地方局	建設企画課長	遠藤 和弥	
8	東温市産業建設部	地域活力創出課長	桑原 和宏	
9	東温市区長会	会長	池川 良徳	
10	東温市老人クラブ連合会	会長	河内 哲一	
11	東温市婦人会	会長	萩原 貴美子	
12	東温市PTA連合会	顧問	松本 司	欠席
13	東温市社会福祉協議会	会長	菅野 邦彦	
14	市民の代表(公募)		渡部 元衛	
15	市民の代表(公募)		横手 裕子	
16	松山南警察署	交通課長	武村 彰剛	
17	伊予鉄道労働組合	副執行委員長	埴田 良太郎	欠席
18	四国運輸局愛媛運輸支局	首席運輸企画専門官 (総務・企画担当)	山本 美恵子	
19	四国運輸局愛媛運輸支局	首席運輸企画専門官 (輸送・監査担当)	山本 悟史	
20	愛媛県	中予地方局 地域政策課長	佐川 功二	

【アドバイザー】香川高等専門学校	教授	宮崎 耕輔	欠席
------------------	----	-------	----

## 令和7年度第3回東温市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時： 令和8年3月13日 14:00～16:00

会 場： 東温市役所 4階 大会議室

### 1. 開会

進 行： ただいまより、令和7年度第3回東温市地域公共交通活性化協議会を開会する。

### 2. あいさつ

会 長： <挨拶>

### 3. 協議・報告事項

#### (1) 令和8年度歳入歳出当初予算(案)について

事 務 局： <説明【資料1】>

会 長： ただいまの説明について、ご意見等ないか。

会 長： 意見等ないようである。事務局案のとおり、令和8年度の当初予算についてご承認を頂けるか。

各 委 員： <<承認>>

会 長： それでは、資料1のとおり決定する。

#### (2) 令和8年度取組概要(案)について

事 務 局： <説明【資料2】>

会 長： ただいまの説明について、ご意見等ないか。

会 長： 意見等ないようである。事務局案のとおり、令和8年度取組概要についてご承認を頂けるか。

各 委 員： <<承認>>

会 長： それでは、原案のとおり来年度の取組を進める。

(3) 第2次東温市地域公共交通計画の策定に係るパブリックコメントの結果及び計画の決定について

事 務 局： <説明【資料3】、【資料4】>

会 長： ただいまの説明について、ご意見等ないか。

横 手： パブリックコメントの5番について、実現はしなかったものの、みんなの公共交通を考える会で、地域おこし協力隊の若い役者さんと一緒に路線バスに乗り込んで市内の観光地に向かうツアーを計画していたことがある。このような特色を生かしたイベントを、私たちは民間でやろうとしていたが、行政と地域おこし協力隊の方々とも協力ができれば、強いアピールになると思う。

事 務 局： この意見は、面白い発想であると感じている。何らかの方法で取り入れることができるとは思っているが、今回の計画では、路線再編が大きなテーマとなっており、以前に伊予鉄バスの方からも、路線を再編すると、市民の方に周知するには、半年以上かかるという意見をいただいている。

今回は、長い期間で興味を持ってもらえるという点から、スタンプラリーを検討しているが、このような意見を、何らかの形で活用できればと考えているため、今後引き続き検討していきたいと思っている。

萩 原： 3番の公共交通の機能と将来イメージの回答の中で、「これらのエリアでは鉄道や路線バスの利便性を維持するとともに、駅やバス停から離れた交通空白地では、鉄道や路線バスを補完する形でタクシーをより便利に利用できるタクシー補助制度の検討を行います。」とある。

実際に、中山間部より都市部の方が、タクシーを利用される方が多いように思う。都市部は利便性が高い土地であることから、一人暮らしの高齢者の方も存在している。そのような高齢者が病院へ行ったり、買い物に行ったりする際には、バスを利用することはできず、タクシーを利用するようになるが、高齢者が1人でバス、タクシーを利用する場合に、より快適でスムーズになるよう、バス会社のご協力を得ながら、独居高齢者も住みやすいまちを念頭に置いて取り組んでいただきたい。

事 務 局： 市街地の高齢者の方の移動については、課題であると考えているが、回答にもあるように、同じ場所に複数の移動手段が存在するとそれぞれの持続可能

性が低下してしまうという課題もある。今回は、バス停から近くの方にはバスの増便により、利便性の向上を図っていく計画としている。バス停から遠い方には、タクシー助成の検討により、公共交通の利用に繋げるような制度を考えていきたいと思っている。また、身体の不自由な方には、福祉の機関とも連携しながら進める必要があり、公共交通だけで全てをカバーするのは非常に難しいと考えている。

都市計画においては、中心部を高齢になっても歩いて暮らせるコンパクトプラスネットワークのまちづくりを進めて、公共インフラを上手に使う取組を進めているため、課題として取り組んでいきたいと考えている。

渡部： 令和8年度取組概要にある住民意見交換会で、住民がバスや電車、タクシーを使いたいと思えるように考えていかなければならないと思っている。

私が学校へ通っていた頃は通学・通勤等で東温市から出る人は、今以上にいたと思う。今、東温市は非常に発展しており、東温市内で生活必需品はすべて揃えることができ、交通機関が充実していることもあり、非常に便利である。

もう1つは、色々な企業の誘致をしており、私が生まれた頃と比べると、日中人口が増えていると思う。住民の意見も大事であるが、事業者さんとの協議を重ねていくことで、公共交通を利用できるような方法を考えていかなければならないと思っている。

事務局： 今後も地域の意見を大切にしながら、取り組んでいきたいと考えている。

会長： 今後、産業団地への路線バスの接続も考えていくのか。

事務局： 公共交通を支えていくためには、通勤需要は非常に重要と考えているため、南方産業団地の整備の計画に合わせて、路線バスを産業団地や川内インターへ接続できないかと検討しており、通勤での公共交通利用という意味も含めた計画としている。

会長： 他に意見等ないようである。それでは、第2次東温市地域公共交通計画の策定に係るパブリックコメントの結果及び計画の決定について、回答を公表し、第2次東温市地域公共交通計画として決定してよいか。

各委員： 《承認》

会長： ご賛同が得られたため、これをもって、第2次東温市地域公共交通計画とし

て決定する。

**(4) 東温市地域公共交通利便増進実施計画策定に係る事業者選定について**

事務局： <説明【資料5】>

会長： ただいまの説明について、ご意見等ないか。

会長： 意見等ないようである。事務局案のとおり、実施させていただくのでよいか。

各委員： <<承認>>

会長： それでは、事務局案のとおり事業者選定を行う。

**(5) 東温市地域公共交通利便増進実施計画策定業務プロポーザル評価委員会設置要綱(案)について**

事務局： <説明【資料6】>

会長： ただいまの説明について、ご意見等ないか。

会長： 委員会名簿の案の方には、ご了承いただけているか。

事務局： この協議会でご了承いただけないかということで資料を付けさせていただいている。

会長： 事務局案のとおり評価委員会を設置してよいか。

各委員： <<承認>>

会長： それでは、事務局案のとおり要綱を制定する。

**(6) その他**

会長： 最後に2月に実施された自動運転バスの実証実験の結果について、伊予鉄バス中川様より、ご説明いただく。

中川： 2月16日から27日まで、自動運転バスの実証運行を実施した。実施するにあたり、東温市のご協力をいただき、SNSやホームページ、地元へのチラシ

配布、前回の協議会でPTA連合会の松本委員や宮崎先生からご紹介いただいた学生向けの案内ツールも活用しながら周知を行った。マスコミを通じてプレスリリースする案もあったが、普段利用されない、もしくは今後利用する可能性がない方まで集まってしまうため、今回はそういった周知の仕方はそぐわないという判断の下、ある程度限定したエリアの方にできるだけ広報をさせていただいた。実際、12日間の運行で、運行便数は1日4便の合計で48便運行し、乗車人数としては284名となった。便によっては、満員で乗り切れないほど、皆さんに興味を持っていただくことができた。

今回は、自動運転の社会受容性を高める事業ではあったが、改めて公共交通に触れていただく機会にもなったと思っている。また、ご乗車いただいた方には、アンケートを記載していただいております。今後自動運転バスが運行した時に利用の意向があるかという内容では、基本的にネガティブな反応は一切なく、積極的に利用したいという方と、必要があれば利用したいという方が100%であった。自動運転バスは怖い、利用したくないという声は一切なかった。

ただ、本来は運行開始を2月14日の土曜日から予定しており、2週間分の土日の運行を計画していたものの、運行開始前日まで準備をしていたところ、車両に不具合があり、整備が必要となってしまったことから、お子様が体験できる土日が2日間運行できなかったことが反省点である。

今回の実証実験は、自動運転バスに触れてもらう機会の創出と、現状の梅本ループ線の延長による交通空白を補う検証であり、今後、具体的に自動運転のバスを使って、今回のルートを実行するというわけではないが、今回乗車いただいた方のアンケートの結果や乗車率を踏まえて、どのようなルートが良いかの検証は更に行っていく予定である。

また、自動運転と梅本ループ線の路線延長を同時に行うとなると、自動運転には多額の初期投資が必要となることや、人を乗せての自動運転の運行は、人が運転する通常のバスよりも経済性が悪くなってしまい、持続可能性をより下げってしまうことに繋がりがかねない。そのため、路線の延長を先に検討しつつ、将来的に維持するためには、自動運転の技術や事業性が高まったタイミングで導入するという計画で行っていきたいと考えている。

会長： ただいまの説明について、ご質問等ないか。

横手： 私は都合が合わず自動運転バスに乗車できなかったが、みんなの公共交通を考える会の牛淵団地に住む高齢の方から、新しい乗り物に触れられて良かったという感想をいただいた。高齢者も新しいものに触れて、気持ちが前向きになっていたので、今後もこういった取組をぜひお願いしたい。

会 長： 全体を通して、ご質問等ないか。

横 手： 東温市は電車やバスが充実しており、松山市で運行しているチョイソコなどを求められる方もいるが、便利が故に導入が難しいと思っている。85歳を超えた高齢の方は、タクシーを利用するようになってくると思うので、先ほどもご意見があったように、タクシーをどのように利用していくかを上手く考えることができればと良いと思っている。

事 務 局： 今後のタクシーを活用した制度の設計を行う中で、できるだけ工夫して高齢者の方にも利用いただけるように考えていきたい。

佐 川： 南予では、タクシー会社がなくなってしまった自治体もあり、私も先ほどの意見と同じで最終的に、タクシーに頼るところが非常に大きいと思っている。関係者によると、南予の自治体では、タクシー会社が最後無くなるという情報すら知らなかったという話を聞いたため、行政と事業者とが密に情報共有を行う必要がある。

もう1点は、ご存じの方もいると思うが、3月10日に、地域公共交通活性化再生法の改正が閣議決定され、今後、地域の交通資源をより活用していく枠組みとして、例えば、スクールバスや、病院の送迎車、商業施設の送迎車等を、朝と夕方の運行時間以外の昼間の空いている時間を公共ライドシェアに使うというような枠組みが進んでくると思っている。

その際に、市町が斡旋することができたり、事業者も努力義務ではあるが、協力を求められた場合は協力するということにもなってくるため、次のステージになるかもしれないが、計画を見直したりするときは、このようなことも視野に入ってくると思う。

会 長： 鉄道、バス、タクシーは一度無くしてしまうと、もう一度運行するのは難しいと感じているため、できるだけ公共交通を残せるように考えていきたい。  
それでは、司会進行を事務局へ返す。

#### 4. 閉会

進 行： それでは、以上で本会議を閉会する。